

本土復帰50年に際し、市民・県民の生命を守る任務遂行に対する感謝決議

戦後27年の米国統治を経て沖縄県が本土復帰をして、本年は50年の節目を迎える。多くの離島を抱える島しょ県の沖縄は、これまで「島チャビ（離島苦）」に挑戦しながら振興発展の歩みを進めてきた。復帰とともに配備された自衛隊は、本来任務ではなかった緊急患者空輸を昭和47年、粟国島を皮切りに開始し、本市消防局や医療機関と連携しながら、本年4月6日に南大東島の緊急患者空輸をもって搬送数が総計1万件を超えるに至った。

その他にも災害派遣として市内外における不発弾処理や、行方不明漁船等の捜索など市民・県民の生命を守る活動を継続して行っている。

また、海上保安庁も同様に本土復帰以来、3千百件余の離島患者空輸や漁船等からの救助をおこなっているほか、ドクターヘリも同様な任務を行い、この復帰50年には様々な行政機関や医療機関などの連携と協力があり市民・県民の生命と財産が守られてきた。

よって本議会は本土復帰50年に際し、関係機関並びに関係各位における市民・県民の生命を守る任務遂行に対して、深甚なる敬意と感謝の意を表するものである。

以上、決議する。

令和4年（2022年）4月25日

那覇市議会